

農試第287号
平成19年6月1日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場 病害虫防除室
☎	0776-54-5100
FAX	0776-54-6403
E-mail	fukui_byougai@fklab.fukui.fukui.jp

平成19年農作物病害虫発生予察予報第4号

6月の気象概況

天気は期間の前半は数日の周期で変わり、後半は曇りや雨の日が多いでしょう。
期間の気温：高い、降水量：並み、日照時間：並みと予想されます。

[水稻関係]

病害虫名 葉いもち

1 予報内容

発生時期：全般発生開始期は平年よりやや早い6月4半旬

被害程度：少発、ただし山間、山沿いの常発地では中発

発生量：平年並み、前年より多い。

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 圃場に放置されている補植用苗は葉いもちの伝染源となるので早急に除去する。除去した苗は畦畔に放置せず、地上部をひっくり返して土中に埋める。
- (2) 葉いもちの常発地、多肥田や直播田、遅植田など葉いもちの多発生する恐れのある圃場では、6月10日までに必ず予防粒剤を施用する。施用時期が遅れると、防除効果が劣るので注意する。施用は湛水状態で行い、自然落水させる。施用後1週間程度はかけ流しをしない。
- (3) 粉剤や液剤での防除は、全般発生開始期(初発)の7日後が防除適期となる。防除時期が遅れると効果が劣るので注意する。薬剤を散布した圃場でも、新たに病斑が見られた場合は、散布10日後に追加防除を行う。
- (4) 昨年、一部の地域でMBI-D剤(商品名：ウイン、デラウス、アチーブの名前を含む剤)に対する耐性菌が発生した。移植時に育苗箱施薬を行った場合でも、生育期間中に葉いもちがみられた場合にはMBI-D剤を含まない薬剤で防除する。

病害虫名 紋枯病

1 予報内容

発生時期：初発は平年よりやや早い6月6半旬

被害程度：少発

発生量：平年、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 前年発生が多かった圃場では発生しやすいので、6月末から7月上旬にかけて粒剤で防除する。
- (2) 茎数が多くなると発病に好適となるので、中干しを行い、過剰分げつを抑える。

病害虫名 ニカメイガ

1 予報内容

発生時期：成虫発生最盛期は平年並みの6月1半旬頃。加害初期は6月4半旬頃。
被害程度：少発、局中発
発生量：平年より多く、前年よりやや少ない

2 防除対策

- (1) 常発地では発生が多くなるので地域全体での防除を図る。
- (2) 防除適期は粉剤および液剤は6月25日頃、粒剤はやや早めの6月15日頃とする。

病害虫名 イネミズゾウムシ

1 予報内容

発生時期：幼虫の発生最盛期は平年並みの6月5半旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策

- (1) 中干しを徹底し、幼虫の発生を抑制する。
- (2) 箱施薬をしていない場合、最盛期の成虫密度が30頭/100株以上であるか、箱施薬をした場合でも80頭/100株以上であるならば、6月上旬に粒剤を散布する。散布後は3～4日間湛水する。

病害虫名 イネクビホソハムシ(イネドロオイムシ)

1 予報内容

発生時期：ふ化最盛期は6月2半旬頃、被害最盛期は6月4半旬頃で平年並み
被害程度：少発、局中発
発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策

- (1) 発生が多い場合は、ふ化最盛期の6月上旬に薬剤を散布する。

病害虫名 イネヒメハモグリバエ

1 予報内容

対象作型：直播栽培、遅植栽培
発生時期：加害盛期は平年並みの6月2半旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年並み、前年より少ない

2 防除対策

- (1) 直播栽培において種子コーティング時に薬剤処理をしていない場合や、下葉1葉あたり4粒以上の産卵が見られるならば、薬剤を散布する。
- (2) 産卵場所となる流れ葉を減らす。

病害虫名 イチモンジセセリ(イネツトムシ)第1世代

1 予報内容

発生時期：越冬成虫発生最盛期は6月2半旬頃。
第1世代幼虫の加害盛期は6月6半旬頃で、平年並み。

被害程度：少発

発生量：平年より少なく、前年より多い

2 防除対策

(1) 6月はとくに防除の必要はない。

(2) 問題となる第2世代幼虫は7月中旬以降に発生するが、年次によって発生時期が前後することがあるため、6月から第1世代幼虫の発生時期に注意する。

[ダイズ関係]

病害虫名 紫斑病

1 予報内容

被害程度：微発、局中発

発生量：平年、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 健全な種子を使用し、播種前に種子消毒を行う。

病害虫名 茎疫病

1 予報内容

被害程度：少発、局多発

発生量：平年より多く、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 前年発生した圃場では連作を行わない。

(2) 大麦跡の額縁排水溝を手直しし、圃場の排水対策を図る。高畝栽培あるいは株元にやや厚めに培土を行う。

(3) 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。

(4) 薬剤散布は発病前に行う。

[野菜関係]

野菜名	病害虫名	予報内容			防除対策
		発生時期	被害程度	発生量	
トマト	疫病	初発： 6月上旬	少発	平年：並み 前年：並み	1)排水をよくし、敷きわらをする。 2)窒素肥料を多用しない。
	青枯病	初発： 6月中旬	少発 (局中発)	平年： やや多 前年：並み	1)排水をよくし、灌水を少なめにして、芽かきは乾燥時に行う。 2)発生株は早期に除去する。 3)敷きわらを厚くし、地温が上がらないようにする。
	葉かび病		少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	
	灰色かび病		少発 (局中発)	平年：並み 前年：少	1)過度の灌水を避け、多湿にならないようにする。 2)葉裏にもよくかかるようにする。
キュウリ	うどんこ病		少発 (局中発)	平年：並み 前年：少	
	べと病		中発 (局多発)	平年： やや多 前年：並	1)通風をよくし、多湿を避ける。 2)同一薬剤は連用せず、ローテーション散布する。

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
スイカ	炭疽病	初発： 6月中旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年： やや多	1)多肥としない。
	つる枯病	初発： 6月中旬	少発 (局中発)	平年： やや多 前年：並み	1)排水をよくし、敷きわらを行い、 通風、透光をよくする。 2)肥料切れ(特に窒素肥料)をさせ ない。
	疫病	初発： 6月下旬	少発 (局中発)	平年： やや多 前年： やや多	1)排水をよくし、敷きわらを行い、 過繁茂を避ける。 2)被害葉を除去する。 3)同一薬剤は連用せず、ローテー ション散布する。
バレイシ ヨ	疫病	初発： 6月上旬	少発	平年：並み 前年：並み	1)通風、排水をよくし、敷きわらを 十分にする。 2)多湿を避ける。 3) 同一薬剤は連用せず、ローテー ション散布する。
全 般	アブラムシ 類	加害盛期： 6月中旬	中発	平年： やや多 前年：並み	1)対象作物により薬剤が異なるので注 意する。
	ヨトウムシ 類	加害盛期： 6月中旬	少発 (局中発)	平年： やや少 前年：並み	1)対象作物により薬剤が異なるので注 意する。
	ネキリムシ 類	加害盛期： 6月上旬	少発 (局中発)	平年： やや多 前年： やや多	1)対象作物により薬剤が異なるので注 意する。
ウリ類	ウリハムシ	成虫加害盛 期： 6月上旬 幼虫加害盛 期： 6月下旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)対象作物により薬剤が異なるので注 意する。
アブラナ 科野菜	モンシロチ ヨウ		少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)加害初期の若齢幼虫期に防除する。 2)対象作物による薬剤が異なるので注 意する。
トマト ナス ピーマン	オオタバコ ガ	加害盛期： 6月中旬	少発 (局中発)	前年：並み	1)果実に食入するため、若齢幼虫期に防 除を徹底する。

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナ シ	黒星病		少発 (局中発)	平年：並み 前年：多	同一系統薬剤の連用を避ける。
	黒斑病		少発 (局中発)	平年： やや多 前年：多	同一系統薬剤の連用を避ける。
	赤星病		少発 (局中発)	平年：並み 前年：多	同一系統薬剤の連用を避ける。

[花き関係]

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キ ク	白さび病	最盛期 6月下旬	少発	前年： やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・罹病株が周辺への伝染源となるので、抜き取り処分する。 ・日当たり、風通しを良くする。 ・同一系統薬剤の連用を避ける
	アブラムシ類	加害盛期 6月中旬	中発	前年：多	・同一系統の薬剤を避ける
	オオタバコガ	初発期： 6月中旬	少発	前年：並み	<ul style="list-style-type: none"> ・若齢幼虫期までに防除を徹底する。 ・同一系統の薬剤を避ける